

授業科目

身体障害作業療法学I

担当教員名 能登 真一	対象学年	3	対象学科	作業
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	◎	◎	◎

授業の概要

脳血管障害や頭部外傷に代表される脳疾患および脊髄損傷などの脊髄疾患に対する作業療法の実際を紹介する

授業の目的

脳や脊髄などの中枢神経疾患に対する作業療法を実施できるようにすること

学習目標

- 1.さまざまな疾患の病態と臨床経過を述べるができる
- 2.脳血管障害に対する作業療法アプローチの目的について列記することができる
- 3.頭部外傷や脳腫瘍に対する作業療法アプローチの目的について列記することができる
- 4.脊髄損傷における作業療法アプローチの目的について列記することができる
- 5.脳血管障害に対する作業療法の実際を説明することができる
- 6.脊髄損傷に対する作業療法の実際を説明することができる
- 7.様々な疾患や症状に関心を持ち、療法士としてそれらの評価や治療に役立とうとする意欲や態度を身につける

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	イントロダクション	講義	能登 真一
2	脳血管障害の病態とその臨床経過 その1 片麻痺	講義	能登 真一
3	脳血管障害の病態とその臨床経過 その2 姿勢	講義	能登 真一
4	脳血管障害の病態とその臨床経過 その3 ADL	講義	能登 真一
5	頭部外傷や脳腫瘍の病態とその臨床経過	講義	能登 真一
6	脳疾患に対する作業療法の実際 その1 基本動作	講義	能登 真一
7	脳疾患に対する作業療法の実際 その2 麻痺側上肢	講義	能登 真一
8	脳疾患に対する作業療法の実際 その3 感覚障害	講義	能登 真一
9	脳疾患に対する作業療法の実際 その4 移動手段	講義	能登 真一
10	脳疾患に対する作業療法の実際 その5 ADL	講義	能登 真一
11	脊髄損傷の病態とその臨床経過 対麻痺とその予後, その他合併症	講義	能登 真一
12	脊髄損傷に対する作業療法の実際 その1 上肢機能	講義	能登 真一
13	脊髄損傷に対する作業療法の実際 その2 ADL	講義	能登 真一
14	評価計画の立案, ICFを用いた問題点の整理の仕方, 治療計画の立案	講義, 演習	能登 真一
15	まとめ	講義	能登 真一

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版	山口昇・玉垣努 編	医学書院	2016年	5,000円+税	
参考書						
その他の資料						

評価方法

期末試験 (80%) + レポート (20%)

履修上の留意点

オフィスアワー・連絡先

月曜日 12:00~15:00

火曜日 12:30~13:00

noto@nuhw.ac.jp